

平成29年度 校区外部評価 自己評価表（最終まとめ）

学校名 品川区立第四日野小学校

【学校評価表の作成および評価に当たっての留意事項】

○各学校では、それぞれの項目ごとに「本校の基本的な考え方」を記入してください。
各学校で評価指標を設定してください。その際は、各学校の重点的な取組と関連させて評価指標を設定をしてください。なお、必要に応じて行を増やしていただいてもかまいません。

○校区外部評価委員による外部評価委員会が開催される前に、学校は、自己評価結果（取り組みの状況や変化等）について、必ず説明をしてください。（校区外部評価委員は、その説明と実際に自分が見た学校の状況等により、評価します。）

【校区外部評価委員の皆様へ】

☆評価をする際には、実際に授業等を見た内容だけでなく、学校が説明した内容、聞き取った内容も十分に参考にしてください。従いまして、評価のために必要と思われる情報や資料につきましては、遠慮なく学校に御請求くださいますようお願いいたします。

評価項目 1 基礎学力の定着

本校の基本的な考え方		◇主体的に考える児童を育てる。 ◇基礎・基本を確実に定着させる。 ◇表現の場を充実させ、思考・判断・表現力を向上させる。 ◇学習習慣を確実に定着させる。 ◇授業改善に努め、児童の学習意欲を向上させる。 (ICT活用推進、英語授業実践を含む)			
評価指標	上段: 成果指標	学校による自己評価		校区外部評価委員による評価	次年度に向けた校長の態度表明
	下段: 取組指標	評価	評価の説明	自己評価に対するコメント	
①	児童アンケート「話し方、聞き方・学習の姿勢や様子」の肯定的評価を8割以上とする。	C	○児童アンケート「授業中、姿勢を正しく、しっかり話を聞いている」の肯定的評価が76%であった。 ○姿勢を保つことは、機会あるごとに指導しているが、なかなか改善しないのが現状である。	しっかり話を聞くことについては、改善が図られてきているが、姿勢を正しく保つことについては、もう少し指導が必要である。	○「しっかり話を聞く。落ち着いて学ぶことができる。」については、身に付いている。 ○一方で、「姿勢を正しく」は、なかなか身に付かない。始業前と後の挨拶での姿勢の指導などで粘り強く指導していく。 (指標に姿勢と学習態度の2つのことが入ってしまい、今後の課題となった。)
	姿勢を正しくし、しっかり話を聞かせ、落ち着いて学ぶ態度や学習規律を定着させる。	B			
②	児童アンケート「授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思う」の肯定的評価8割以上とする。	B	○児童アンケート「授業では、友達と話し合う活動を良く行っていた。」の肯定的評価が8割以上であった。 ○教員は、話し合う活動を教員も意識して取り入れようとしていた。	話し合う活動は積極的に導入されており、評価される。今後も継続しながら学びあいの力を高めていく取り組みを期待したい。	○「したい」「やってみたい」「試したい」のように「～たい」が多い授業を目指すことを学校全体のテーマとして、取り組み、主体的に学ぶ児童の育成を目指すとともに、難しい課題にも挑戦しようとする児童の育成を目指す。
	学び合いの多い授業構成を工夫し、児童が自分の考えをもって積極的に学習活動に参加できる場を設定する。	B	○次の段階として、児童の話し合いを授業に生かしているかなどを検証しつつ授業改善を進めたい。 ○次の段階として、児童に少し難しい課題を乗り越えようとする力が育っているかなどを検証しつつ授業改善を進めたい。		
③	東京ベーシックドリル診断シートを活用し、平均正答率90%以上を目標とする。	C	○はげみ学習は、本校独自の特徴ある活動である。教育支援ボランティアの協力を得て、1年間計画的に進めることができた。	目標には到達していないが、着実に力をつけてきているので、今後もはげみ学習やステップアップ学習の内容を工夫しながら取り組んでほしい。	○はげみ学習については、児童の伸びが見られ、効果が表れている。 ○朝や昼のモジュールは、いろいろ工夫ができるのではないかとご助言いただいた。来年度の検討課題としていく。 (東京ベーシックドリルの目標設定がよくなかった。今年度の結果が本校の実態としてとらえ、目標を設定し直して効果を測定していく。)
	はげみ学習(朝15分のモジュール学習)や5・6年のステップアップ学習を計画的に実施し、算数の基礎基本の定着を図るとともに、児童に「分かる」「できる」という学びの楽しさを味わわせる。	A	○東京ベーシックドリルの診断シートの目標値には、届かなかったが、(目標のものさしの設定がよくなかったと分析している)1学期から比べ、力を伸ばしていることが分かる結果が出た。基礎基本の定着に有効であると考えているので今後も継続していく。 7月の正答率→12月の正答率 <3年>54.9%→66.4% <4年>72.5%→74.4% <5年>66.4%→71.9% <6年>74.7%→73.9%		

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

評価項目2 社会性・人間性の育成

評価指標		学校による自己評価		校区外部評価委員による評価	次年度に向けた校長の態度表明
		評価	評価の説明	自己評価に対するコメント	
本校の基本的な考え方		主体的に考える児童の育成を目指し、生活面でも意識して指導を行う。 ◇『四日野っ子のちかい』をもとに、全校で一致した生活指導を推進し、社会での基本的なマナーやルールを守る態度を育てる。 ◇学級集団での関わり、学年・学校を越えた他者との関わりを充実させ、自尊感情を高めるとともに、他者を尊重する態度を身に付けさせる。 ◇年間を通した健康教育、体力増進の取り組みを推進する。			
	上段: 成果指標	学校による自己評価		校区外部評価委員による評価	次年度に向けた校長の態度表明
	下段: 取組指標	評価	評価の説明	自己評価に対するコメント	
①	児童アンケート「自分でしっかり考え正しい行動ができるようにしている」の肯定的評価が90%以上を目標とする。	C	○児童アンケート「自分でしっかり考えて正しい行動ができるようにしている」の肯定的評価が77%であった。 ○全校で一致した生活指導ができるようにしてきた。	自分から考えて行動することが多少、苦手な子供たちであることを踏まえて指導の在り方について検討しながら進めていってほしい。	○来年度も生活のきまり第3条を重点として生活指導を進める。 ○市民科とも関連させ、主体的に行動できる児童の育成を目指す。 ○学校が目指す姿を実践していた児童をタイミングを逃さずに評価することを学校全体で意識して取り組み、生活面でも主体的に行動できる児童を育成する。
	生活のきまり第3条「いつでも自分でしっかり考え正しい行動ができるようにがんばります。」が達成できるように全校で一致した指導を行う。	B	○良い行動をしている児童は、タイミング良く褒めるようにしてきた。 ○教師側からの指導だけでなく、市民科で生活指導でも児童に考えさせる学習を行うなど授業改善が課題である。		
②	児童アンケート「地域の方やお客様にもじぶんからあいさつできる」の肯定的評価が90%以上を目標とする。	B	○児童アンケート「地域の方やお客様にも自分からあいさつできる」の肯定的評価は85%であった。 ○集中的に指導している期間は挨拶ができていない現状がある。	あいさつの励行については、指導の成果が現れてきており改善されている。今後は、学校だけでなく保護者の協力を得ながら日常化に向けて取り組んでいってほしい。	○まず、教職員からあいさつをして、あいさつができる児童を育成する。 ○保護者に、あいさつについての実態を説明し、家庭と連携した取り組みを進める。
	生活のきまり第2条「先に、誰にでも、大きな声で自分からあいさつします」が達成できるように全校で一致した指導を行う。	B	○保護者にも現状を説明し、指導を続けていく。		
③	児童アンケート「協力してわくわく班を活動している」「わくわく班活動ではリーダーとして努力している」の肯定的評価が80%以上を目標とする。	A	○児童アンケート「協力してわくわく班活動をしている」の肯定的評価が89%であった。 ○保護者アンケート「学校は縦割り班などで、よりよい人間関係が築けるようにしている。」の肯定的評価が99%であった。	「わくわく班活動」は軌道に乗り、よい効果が現れている。今後も活動内容を工夫しながら継続して取り組んでいってほしい。	○効果が表れている教育活動の一つである。本校の特色ある活動として充実させていく。 ○今年度、桜の木を使った班ごとの看板作りは、児童の人間関係を豊かにする活動となった。来年度も時間をとってわくわく班で活動することに取り組んでいく。
	年10回行う、異学年活動(わくわく班遊び)を充実させ、より良い人間関係を築く力を育てる。	A	○異学年活動「わくわく班」の活動は、児童の意識も高く、保護者の方も好意的に受けとめている。本校の特色の一つとして表裏している。		
④	四日野っ子週間での「早寝・早起き・朝ごはん」のアンケート結果が90%以上の達成を目指す。	A	○全国健康づくり推進学校優秀校として表彰していただいた。 ○保護者も巻き込んで、生活リズムを考える良い取り組みであり、本校の特色となっている。「大人にとっても厳しい取り組みですが、生活を見直す機会になっている」という感想を保護者からいただいている。	四日野っ子週間での取り組みの目的や活動が、保護者にも理解され、具体的な効果として現れている。今後も継続して取り組んでいってほしい。なお、体力づくりについては、現在の取り組みの内容・方法について検証しながら改善に向けての方策の検討を求めたい。	○生活習慣の確立が体力向上に上手く繋がっていないのではないかとご助言をいただいた。また、体力作りは、内容と方法を見直す必要があるとご指摘いただいた。コーディネーショントレーニングを取り入れるなどして、体力向上を課題として取り組む。
	体育授業の充実、休み時間の外遊びの励行、保健指導、食育の展開などにより、健康な子を育成する。	A	○早寝、早起き、朝ごはんについて、児童、保護者ともに意識が高まっている。 ＜四日野っ子週間でのアンケート結果＞ 12日間で、達成できたと回答した平均日数(全学年平均) 朝ごはん…全学年で平均11.8日できた(98%の達成) 早起き…全学年で平均9.9日できた(82.8%の達成) 早寝…全学年で平均8.2日できた(68%の達成)		

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

評価項目3 保護者・地域との連携

本校の基本的な考え方		◇学校を開き、教育活動の「見える化」を促進することで、保護者・地域からの信頼を得られるようにする。さらに、教育活動や児童の姿を以て、選択される学校を目指す。 ◇来年度からのコミュニティスクールを見通して、教育ボランティア組織を整備する。 ◇地域行事にかかわることで、保護者や地域との相互理解を密にできるようにしていく。			
評価指標	上段: 成果指標	学校による自己評価		校区外部評価委員による評価	次年度に向けた校長の態度表明
	下段: 取組指標	評価	評価の説明	自己評価に対するコメント	
①	CSコーディネーターを中心に教育ボランティア登録者40人を目指す。	B	○はげみ学習の教育支援ボランティアは、22名の方に登録いただいている。ガーデンマスター、読み聞かせ、折り紙隊と本校のボランティアグループの方を合わせると40人を超す方にご協力いただいている。	現在の組織をうまく生かしながら、コミュニティスクールにつなげていく検討を期待したい。	○ボランティアとの連携については、上手く機能していた。 ○品川コミュニティスクール実施に当たって、今までの活動をコミュニティスクールに位置づけ、充実させていく。 ○品川コミュニティスクールの認知度が低い。学校行事で保護者が来校するとき、コミュニティスクールの活動について情報発信する工夫を取り入れ、保護者が当事者意識をもてるようにしていく。
	教育ボランティア組織を年度末までに整備するとともに、地域で(に)学ぶ授業の計画を改善する。	B	○はげみ学習、商店街体験など現在実施している教育活動を年間指導計画に位置づけ、コミュニティスクールと関連させていきたい。		
②	保護者アンケート「本校がコミュニティスクールになることを知っている。」の肯定的評価7割以上を目指す。	C	○コミュニティスクールについての保護者への認知度が低い。(保護者アンケート「本校がコミュニティスクールになることを知っている。」の回答は33%であった。)情報発信する工夫をしていきたい。	さまざまな機会、方法を活用しながら保護者の理解を図る取り組みを期待したい。	
	学校便りや保護者会でコミュニティスクールの意義を説明し、保護者の理解を進める。	B			
③	保護者アンケート「学校便りやホームページなどを通して、学校の様子が分かる」の肯定的評価が8割以上とする。	A	○保護者アンケート「学校便りやホームページなどを通して、学校の様子が分かる」の肯定的評価は、90%であった。 ○学習ボランティアやコミュニティスクールの活動を教育活動の情報発信の手立てとしていきたい。	さまざまな方法を使つての情報発信に努めており、今後も継続して取り組んでほしい。	○肯定的評価がよりよくなるように、ホームページ更新が滞ることがないように進めていく。 ○保護者とのコミュニケーションがより豊かになるように、日常の児童の実態を伝える方法を模索していく。
	学校だより、学年だより、ホームページを工夫し、情報発信を促進する。	A			

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

評価項目4 環境整備・美化

本校の基本的な考え方		◇児童が安全に過ごせるよう、常に「安全確保」の高い意識をもって、点検・改善を行う。 ◇児童の豊かな学びに資する、校内美化・校内整備・掲示物の充実に努める。			
評価指標	上段: 成果指標	学校による自己評価		校区外部評価委員による評価	次年度に向けた校長の態度表明
	下段: 取組指標	評価	評価の説明	自己評価に対するコメント	
①	施設不良によるけが0を目指す。	A	○施設不良によるけがは今後も0を継続していく。 ○安全点検は、今後もしっかりと行っていく。	安全管理は、組織的・計画的に取り組まれており評価される。今後も継続して取り組んでほしい。	○安全点検等気を抜くことなく行い、施設不良による事故0を継続する。 ○古い校舎を今まで以上に大切に使い、引き続き児童とともにきれいな学校にしていく。
	休み時間の看護当番活動や毎月の安全点検を確実に実施し、組織的に安全の確保を図る。	A			
②	保護者アンケート「教室の清掃・掲示物・廊下・玄関の状況」の肯定的評価が9割以上とする。	A	○保護者アンケート「学校は清掃をきちんと行い、掲示物を工夫するなどして、環境を整えている」の肯定的評価は94%であった。 ○月1回以上の掲示更新は、今後も努力していく。 ○児童は、一生懸命掃除をしているが、ごみの取り残しなど、やりきれない場面もあるので、品川コミュニティスクールの力を借りるなど工夫していきたい。	校内はきれいに清掃され、掲示物・展示物も適切に管理されている。	○掲示物の更新は、継続して意識して、取り組む。 ○校内環境の整備については、ボランティアの力を借りるなどの工夫ができないか検討していきたい。
	児童の掲示物の誤字脱字に気をつけ、月1回以上掲示物を更新する。	B			
③	児童アンケート「進んで教室や廊下の清掃、靴箱の整頓などを行った」の肯定的評価を9割以上とする。	C	○児童アンケート「進んで教室や廊下のそうじ、くつばこの整理整頓を行った」の肯定的評価は、68%であった。 ○写真やシールを活用して教室整備に努めた。	進んで教室や廊下の掃除等に取り組む児童を育てていくには、具体的な姿や様子を示しながら進めることが効果的でもあるので、検討してほしい。	○市民科とも関連させ、「自分たちの環境を整える」についても、主体的に行動できる児童の育成を進める。
	机の整理整頓、ロッカーの上の整頓、靴入れのくつばこの整頓など、児童下校後の教室環境の整備を児童にも意識させる。	B	○教師側からの指導だけでなく、市民科で生活指導でも児童に考えさせる学習を行うなど指導の仕方がある。		

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

評価項目5 いじめ防止に関する取組

本校の基本的な考え方		◇「いじめはどの子どもにも、どの学校にも起こり得る」という前提に立ち、未然防止および発生時の迅速な対応に、全力を尽くす。 ◇すべての児童が、いじめを自分のこととして受け止め、自分たちで防止・解決しようとする力を育成する。 ◇互いを認め尊重し合う学校・学級の風土を作る。			
評価指標	上段: 成果指標	学校による自己評価		校区外部評価委員による評価	次年度に向けた校長の態度表明
	下段: 取組指標	評価	評価の説明	自己評価に対するコメント	
①	教員アンケート「いじめ問題、不登校、その他問題傾向のある児童への対応を全校的に共通認識し高める」意識が10割近くに達する努力をする。	A	○教員アンケート「いじめ問題、不登校、その他問題傾向のある児童への対応を全校的に共通認識し高める」の肯定的評価は100%であった。 ○生活アンケート、担任による子ども面談、SCによる全員面談など、児童が気持ちを伝えられる場をできる限り確保し、早期発見に努めてきた。 ○授業でも多様なグループ活動を取り入れ、関わり合いを多くもたせていく。 ○現在、高学年になると人間関係が難しい場面が見られる。注意して指導している。	早期発見・早期対応に向けた組織的な取り組みがなされており評価される。 早期発見・早期対応に向けた組織的な取り組みがなされており評価される。	○教職員間のコミュニケーションや情報共有を怠らざりに行い、児童のよりよい人間関係育成に繋がるようにしていく。 ○生活アンケート、担任による子ども面談、SCによる全員面談など、児童が気持ちを伝えられる場を計画的に設定し、トラブルの早期発見に努める。 ○低学年から、関わり合いのよさを味わえる様に指導したり、友達よさを認め合う活動を取り入れる。 ○日常の児童の実態を保護者に適切に伝える方法を模索していく。
	生活アンケート、担任による子ども面談、SCによる全員面談など、児童が気持ちを伝えられる場をできる限り確保し、早期発見に努める。	A	○児童アンケート「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」の肯定的評価が9割以上とする。 ○月1回以上、命を大切にす指導や人権尊重に基づく指導を行い、児童の人権意識を高める。		
②	教員アンケート「いじめ問題、不登校、その他問題傾向のある児童への対応を全校的に共通認識し高める」意識が10割近くに達する努力をする。	A	○児童アンケート「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」の肯定的評価が9割以上とする。 ○月1回以上、命を大切にす指導や人権尊重に基づく指導を行い、児童の人権意識を高める。	子どもたちにも「いじめ」のもつ問題点が理解されてきており、今後も継続して指導して欲しい。	○継続して、月1回人権にかかわる指導を行っている。 ○学期1回設定している「四日野人権月間」を教職員で共通理解し、確実に実施していく。
	週案の記録などで児童のわずかな変化でも管理職へ報告・連絡し、スクールカウンセラーと協働しながら指導体制を充実する。	A	○児童アンケート「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」の肯定的評価が9割以上とする。 ○月1回以上、命を大切にす指導や人権尊重に基づく指導を行い、児童の人権意識を高める。		
③	教員アンケート「いじめ問題、不登校、その他問題傾向のある児童への対応を全校的に共通認識し高める」意識が10割近くに達する努力をする。	A	○児童アンケート「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」の肯定的評価が9割以上とする。 ○月1回以上、命を大切にす指導や人権尊重に基づく指導を行い、児童の人権意識を高める。	子どもたちにも「いじめ」のもつ問題点が理解されてきており、今後も継続して指導して欲しい。	○継続して、月1回人権にかかわる指導を行っている。 ○学期1回設定している「四日野人権月間」を教職員で共通理解し、確実に実施していく。
	児童アンケート「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」の肯定的評価が9割以上とする。	A	○児童アンケート「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」の肯定的評価が9割以上とする。 ○月1回以上、命を大切にす指導や人権尊重に基づく指導を行い、児童の人権意識を高める。		

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

評価項目6 学校独自の特徴ある教育活動

本校の基本的な考え方		◇英語教育モデル校として、新カリキュラムによる英語に取り組む ◇ICT機器を効果的に活用し、児童の学習意欲を高め、児童がよりよく考える授業を展開する。 ◇日常から児童自ら運動に親しむ態度を育て、体力向上を目指す。			
評価指標	上段: 成果指標	学校による自己評価		校区外部評価委員による評価	次年度に向けた校長の態度表明
	下段: 取組指標	評価	評価の説明	自己評価に対するコメント	
①	教員アンケート「ICT活用して、分かるできる学びの楽しさを児童に味わわせられる授業をおこなっている」の肯定的評価80%以上を目指す。	B	○教員アンケート「ICT活用して、分かるできる学びの楽しさを児童に味わわせられる授業をおこなっている」の肯定的評価は、91%であった。ICTは各クラス工夫して、活用している。 ○タブレットのさらなる活用や品川区の施策の実施など、教材研究する時間を確保していく。	ICTは、それぞれの授業の中で工夫しながら活用されており、今後も継続して取り組んでいきたい。	○プログラミング教育、トータル学習システムの活用が課題となっている。情報主任を中心に課題解決を進める。 ○教材研究をする時間が確保できるように、行事時間の改善、会議の精選、会議時間の工夫を考えていく。
	ICT機器を毎日活用し「わかる」「できる」という学びの楽しさを児童に味わわせられる授業を工夫する。	B	○児童アンケート「英語は大切である」の肯定的評価は84%であったが、高学年になると苦手意識が見られた。また、各学年理解が難しい児童がいる。 ○楽しいだけでは、英語は身に付かないので、児童の意欲を持続させるために、担任の指導が大事になってくる。		
②	児童アンケート「英語は大切である」の肯定的評価が8割以上を目指す。	A	○児童アンケート「英語は大切である」の肯定的評価は84%であったが、高学年になると苦手意識が見られた。また、各学年理解が難しい児童がいる。 ○楽しいだけでは、英語は身に付かないので、児童の意欲を持続させるために、担任の指導が大事になってくる。	英語については、学年が上がるにしたがって「楽しい」授業から「苦手」な授業に変化していくことが明らかになったので、教材の工夫や授業内容の見直しを含めた検討を期待したい。	○高学年になるに従って、英語の壁にぶつかる児童が増えている。アルファベットの発音等を理解することは大事であるが、意欲が低下しないように、アクティビティ等を工夫していきたい。
	JETやALTとの連携し、品川区新カリキュラムによる英語を確実に実施していく。	B	○児童アンケート「英語は大切である」の肯定的評価は84%であったが、高学年になると苦手意識が見られた。また、各学年理解が難しい児童がいる。 ○楽しいだけでは、英語は身に付かないので、児童の意欲を持続させるために、担任の指導が大事になってくる。		
③	体力テストに全ての項目で品川区の平均を上回ることを目指す。	C	○体力テストの結果は、よくなかった。各学年の平均を下回ったテストがあった。	体力を向上させていくためには、学校としての取り組みの内容と方法について、その効果を検証するとともに、保護者との連携を進める内容についての検討を期待したい。	○体力づくりは、内容と方法を見直す必要があると指摘いただいた。コーディネーショントレーニングを取り入れるなどして、体力向上を課題として取り組む。 ○保護者と連携した取り組みを検討していく。
	体育学習を充実させるとともに、保護者と連携してワニミニツエクスサイズを進め、児童の体力向上を目指す。	C	○体力づくり週間など、体力作りのための取り組みを行っているが、結果に繋がっていない。 ○年度当初、各学年の体力テストの結果を確認し、体力向上のための指導を改善していく必要がある。		

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

校区外部評価委員より（その他、お気付きの点などがありましたら自由にお書きください。）